

土の締固めについての論文を読んで見た。するとこの点についてはすべての実験がまちまちであつた様に思はれたので、同じ土の種々な状態に於ける締固めを Proctor の方法により行ひ併せて此の土の電気抵抗及棒の貫入深さを測定しその状態の性質を批判して見た。今回はその結果を報告する。尙新しい論文を読み殊に目新しいと痛感された点に就いて述べる。例へば土の締固めと壓密が非常に密接に考へ出された点等についてである。

A₃-5 地震時岸壁背面に及ぼす土壓の分布に就て

○永 井 莊 七 郎
畑 中 元 弘

地震時岸壁の背面に働く土壓の鉛直分布は静土壓と同様に地表面より下へ行く程大きいと考へられていたが此の考へ方が正しくないやうであることは既に一部の人々から指摘されていた。それでは實際に如何なる分布をするかを實際の岸壁について確めるために、背面に深さ 1m~10m の井戸を掘り、その中に微動計を入れ、振動器及びダイナマイトにより起した振動の加速度の鉛直分布を測定した。この種の實驗を昭和22年3月及び4月に和歌山港の水深 6.4m の岸壁に於て行つたが、その結果、非常に興味のある資料が得られたので、第2回目の實驗を今年3月及4月、神戸港の水深 10m 岸壁に於て行つた。その結果の概要を、第1回の實驗結果と比較しつゝ發表する。

A₃-6 棚式繫船岸壁の地震時安定計算に就て、 特に名古屋港岸壁の災害に對する考察

松 尾 春 雄
○深 川 三 郎

棚式繫船岸壁の地震時の安定計算を提案し之に依つて名古屋港の東南海地震による震害の説明を試みた。控版の控え力の外に杭による水平支持力を考慮に入れて計算を行ひ在來の計算法による結果と新計算法とを比較した結果新計算法による方が震害をよく説明し得られる事を確めた。

A₃-7 機械分析についての考察

松 尾 新 一 郎

機械分析の名稱、分析結果の表示法、機械分析法の分類、土性論に於ける機械分析の地位等につき考察せるところを報告する。

* 運輸省第三港灣建設部調査課長 * 京大講師 * * 九州大學教授 * * 九州大學 * * 京都大學助教授